

『資本主義的食料システム』を考える ～大豆を伝統食から工業原料に、 植物油をエネルギーから食材に変えた政治経済史

2019年1月23日（水）午前10時30分～12時

平賀 緑さん

ありあまるごちそうに囲まれている私たち。でも、日本でも子ども食堂やフードバンクが必要とされ、アレルギーや鬱やメタボなど不健康は増えているようだし、食べものの中身はますます不明瞭になり、農業の先行きはますます危うい。世界的には食料システムが人の健康と地球環境を壊す主犯と目されている。一方、政府は「強い農業」を叫び、日系商社や企業はグローバルに事業展開している。このような「資本主義的食料システム」はどのように構築されたのか、その中で私たちが食べたいものを見極めるには。大豆と油の政治経済史から「資本主義と食」を解き明かします。

平賀緑（ひらがみどり）

かつて丹波の小さな畑にて有機菜園と鴨たちを育て、手づくりバイオディーゼルの燃料で車を走らせ、持続可能な食とエネルギーを促す適正技術を紹介していました。その後、ロンドンで食料政策を学び修士（食料栄養政策）を、京都大学大学院で農業・食料の国際政治経済学を学び博士（経済学）を取得。現在、大学の非常勤講師や研究員など勤めつつ、植物油から「資本主義と食」について考え続けています。



- 会場：神戸学生青年センターホール
（阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩15分）
- 参加費：600円 ※託児（無料）があります。
- 必要な方は前々日までに予約してください。
- 主催：（公財）神戸学生青年センター
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878
ホームページ <http://ksyc.jp>
e-mail info@ksyc.jp

